〈案〉

～地域の子どもたちに夢と誇りを！～

輝け富崎！コミュニティのつどい

太平洋に開かれた海路の拠点・館山市の最南端にあたる富崎地区は、海洋民の交流する玄関口として、さまざまな文化を育んできた豊かな歴史があります。富崎の地名は、布良崎神社の祭神で安房開拓の祖と伝えられる天富命と、岬に位置する地域であることに由来しています。漁業基地としてもその名を全国にとどろかせ、せまい漁村は活気に満ちあふれていました。とくにマグロ延縄漁でもっとも賑わっていた明治時代には、多くの文人墨客がこの地のエネルギーに惹かれ、たびたび訪れています。画家では青木繁は《海の幸》を描き、中村彝(つね)が《海辺の村(白壁の家)》を描いて、ともに明治画壇に大きな足跡を残しています。

こんなに誇り高き富崎地区の現在は、520 世帯、人口 1,140 名、成人 1,052 名、65 歳以上 524 名、80 歳以上が 200 名を超えるという超高齢化社会です。幼稚園はすでに廃園となり、小学校の生徒数は 18 名という厳しい現状です。一方、夕張を象徴とするように行政も逼迫した財政難のなか、私たち市民が地域で抱える課題を自ら解決していかなくてはならないのも現実です。富崎地区は、繰り返し起きる地震や津波の災害からも立ち上がり、復興してきた先人の営みや知恵がたくわえられています。それらを次世代に語り継ぎ、お互いに支えあう地域コミュニティを目ざし、いま、私たちには何ができるでしょうか。地域社会で暮らす原点を見つめなおし、少子高齢化を逆手にとって、マイナスをプラスに転換するような活性化のヒントをみんなで考えてみませんか。まずは、地域を歩いてみましょう。

日　時：２００７年６月１７日（日）９：４５～受付
会　場：館山市立富崎小学校　　参加費：
午　前：フィールドワーク
午　後：① 紹介「布良を描いた青木繁と中村彝(つね)」
② 贈呈式～《海の幸》レリーフと《海辺の村》複製画
③ 講演：福留強氏「地域の宝～創年と子ども」
（全国生涯学習まちづくり協会理事長、聖徳大学教授）
④ まちづくりワークショップ
主　催：富崎地区コミュニティ委員会
ＮＰＯ法人南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム
後　援：館山市、館山市教育委員会、館山市コミュニティ委員会連絡協議会
全国生涯学習まちづくり協会　　（予定）

青木繁《海の幸》記念碑